産経新聞別冊タブロイド版（奈良・和歌山）

「2025 年　昭和から 100 年を振り返る」

奈良と和歌山が歩んだ過去と未来

令和 7 年（2025）11 月 29 日発行　企画・製作/産経新聞社メディアビジネス局

令和 7(2025)年は「昭和 100 年」にあたります。大正 15 年（1926）12 月 25 日、大正天皇が崩御され、昭和元年とする旨の改元の詔書が発せられました。以来、先の大戦を経て、戦後復興から高度成長、バブル経済へと突入した昭和という時代。

産経新聞社から別冊タブロイド版「奈良・和歌山　昭和から 100 年を振り返る」が発行されました。

・「昭和から 100 年」のふるさとの歩み
・「これからの 100 年」未来を担うあなたへ
・「昭和から 100 年」ふるさとの記憶、時代とともに

昔の写真を掲載し説明されています。その中から、当館の「奈良の今昔写真 WEB」の写真を使用した記事を紹介します。

わかくさ国体開催

奈良県で初めての国民体育大会となった「わかくさ国体」は、1984年（昭和59年）に開催されました。スローガンは「駆けよ大和路　はばたけ未来」。夏季大会（4競技）は奈良市と天理市、五條市、月ヶ瀬村、吉野町、兵庫県芦屋市で開催され、4384人が参加。秋季大会（33競技）は県内の28市町村で開催され、2万124人が参加しました。

国体は2024年（令和6年）から国民スポーツ大会に名称を変更。奈良県では2031年（令和13年）に国スポが開催される予定です。

写真提供：河本真由美様（奈良県立図書情報館今昔写真 WEB 蔵）

古都奈良の文化財が世界遺産登録

東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡の8つの資産で構成される「古都奈良の文化財」が、1998年（平成10年）に世界遺産に登録されました。8つの資産全体が一つの文化遺産として登録されたもので、奈良県では「法隆寺地域の仏教建造物」に続き、2つ目の世界遺産となりました。

古都奈良の文化財は、日本の歴史に政治的・文化的変化をもたらした、極めて重要な時代でもある8世紀（奈良時代）の宗教、生活の在り方を伝えているなどと高く評価されました。

写真提供：河本勝様（奈良県立図書情報館今昔写真 WEB 蔵）

なら・シルクロード博覧会

シルクロードの文化が遣唐使によって平城京にもたらされたことから、奈良はシルクロードの終着点ともいわれます。奈良市の平城宮跡と奈良公園周辺では1988年（昭和63年）に「なら・シルクロード博覧会」が開催されました。

メインテーマは「民族の英知とロマン」。天平の昔、荒れ狂う大海を越えて唐に留学した若い僧たちを描いた歴史小説「天平の甍（いらか）」などで知られる作家の井上靖が、総合プロデューサーを務めました。海のシルクロード館には遣唐使船を展示。半年間で約682万人近くが来場しました。

写真提供：木村守男様（奈良県立図書情報館今昔写真 WEB 蔵）